

送 辞

木々の芽がふくらみ始め、あたり一面春の光に包まれつつあります。じっと冬に耐えてきたたんぽぽも、今、太陽に向かって花開こうとしている今日の良き日。この学び舎を旅立たれる卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。作新学院大学女子短期大学部の全課程を終えられ、新たな道を歩まれることを、在校生を代表し心より御祝い申し上げます。

皆様はこの二年間をどのように振り返っていらっしゃるでしょうか。多くの友達、先生方との出会いの中で色鮮やかな思い出を築き上げてこられ、同時に新入生の頃より大きく成長されてきたと思います。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の制限が緩和され、一年を通して短大の特色である四季折々のイベントを開催することができました。そのため、この一年間は先輩方とたくさんの思い出で彩ることができました。

私たちが入学し、先輩方と一緒に行った初めての行事であるオリエンテーションでは、川越へ行くまでのバスの中でとても可愛い手作りの名札を配ってくださったり、ミニゲームや手遊びを用意してくださったりし、私たちの緊張をほぐし、楽しい一日にしてくださいました。あの時頂いた名札は今でも大切に持っており、飾ってあります。一週間後に行われた一年生歓迎会では、素敵な衣装に身を包んだ先輩方が、ショーや手遊び、ダンスを行い、私たちを盛大に歓迎してくださいました。

七月には浴衣を着て授業をし、八月には実習があったため、前期は休む暇もなく過ぎていったのではないのでしょうか。後期にはハロウィンパーティーでのファッションショー、作新祭、クリスマス会での合奏がありました。一年生がグループワークキャンプに行った際のボランティアをしてくださる姿、作新祭で一年生を導いたり、責任をもって目の前の作業をこなしている姿は本当に頼もしく、保育者を目指す者としての団結力や姿勢を見せてくださいました。私が所属する児童文化部の先輩方は、新型コロナの影響で途切れてしまった活動で分からないことも多い中、一年生の私に優しく話し掛け、一緒に活動を盛り上げようとしてくださり、先輩方の温かさを感じました。こういった場面以外にも一年間で先輩方の優しさや物事に全力で取り組む姿を見ることができる場面がたくさんあり、それを重ねる度に、先輩方は私の憧れの存在となっていきました。

そんな先輩方との思い出をこうして振り返り、このような素敵な日々が今日で終わるかと思うと、どこか物足りなさを感じてしまいます。先輩方のように、二年生として頼もしく格好い人になれるか正直不安もありますが、私達も先輩方のように憧れの存在となれるよう、一日一日の授業や実習を大切に、精進して参ります。

先輩方皆様が進まれる道は様々でございますが、それらの道が夢と希望で満ち溢れていることを、在校生一同心からお祈りしております。

最後になりますが、作新学院大学女子短期大学部で習得されたことを糧に先輩方のますますのご活躍を願いつつ、今後の皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げ、送辞とさせていただきます。



令和六年三月十七日
作新学院大学女子短期大学部
在校生代表 松山 美来